

第三十回 歯の矯正治療の後の後遺症

頭蓋骨をバラバラに分解しますと 50 個の骨になると言われています。

その頭蓋骨を歯の矯正治療で歯だけ動かすだけでなく、頭蓋骨の骨までも動かし、ワイヤで歯を固定するために屈曲・伸展が出来ない状態を作るために(両手を手錠をかけられた状態)外的障害(他に電磁波・自分に合わない薬)をおこし、硬膜の緊張をおこし、硬膜の緊張をおこしますと神経伝達不良をおこし、正常な人は下顎を片側へいっぱい横へ動かしますと、反対側の足が短くなりますが神経伝達不良の人は無反応です。

顎関節症の人は片方だけ無反応または少ししか動かないです。

頭蓋骨を動かすには直前に首から下及び骨盤を正常にしてから頭蓋骨を動かさないと頭蓋骨を壊すこととなります。人間の骨の1番大きな骨は骨盤の骨であり骨盤の骨と頭蓋骨の骨は互いに補正しあっている為に絶対にやってはならないことをやってしまうものです。(歯並びをよくするにはこれしかないと思われそうですが一長一短です。)

その為に体全体の骨の硬膜が緊張をおこし屈曲・伸展つまり心臓のように、体全体のポンプ作用が出来ない為に収縮したり拡張が出来なくなり、頭蓋骨を始め体全体の骨が中心に向かって圧迫された状態の為にレントゲンを探って顎関節部の骨(側頭窩)と骨(下顎頭)との隙間が左右の差がそれほど出ないだけでなくおしりの左右の出っ張りも左右の足の長さも少ししか変わらないこととなります。

その為に脳脊髄液の流れが悪い(頭とおしりの真中の骨である仙骨を行ったりする1分間に10~11回するものが少なくなり死の直前だと4回位)だけでなく眠りは浅く常に体がだるく、首の骨は生理的湾曲ではなく直となり足はだるく、重く引きずって病気の中の病気とも言われる医者に診てもらっても分からない、ラフ病とか自立神経失調症とか怠け者とか色々言われるものです。(このような人には周りに誰もいないとごろごろと横に寝そべっているものです。)

時にはひどくなると交通事故時頭を打撲・骨折した状態と同じく、何年か何十年か先に足に力が入らなくなり立つことができなくなったり、又は片足だけがということもあることです。

硬膜の緊張を取らなければ5年でも10年でも20年でもこの状態が続くこととなります。歯の矯正治療をした人の顎関節症の治療期間は人によりけりですが、一般の人の顎関節症よりも長く数ヶ月~するとも言われています。